

2018年(平成30年)12月6日(木曜日)

さらなる観光誘客を

花を飾った街路灯が並び三島市の三嶋大社周辺の通りは週末、多くの観光客らでにぎわう。近くの商店街にはシャッターを下ろしている店はほとんどなく、活気を感じさせる。

指す「観光交流客数」は一七年度が七百六十七万人。一三年に伊豆フルーツパーク、一五年に三島スカイウォークが開業した影響などで、一二年度の四百四十四万人と比べて一・七二倍にも数字は増えた。

二〇一五年からJR三島駅前、一六年から三嶋大社前で土産物店を開いた「二和工業商会」(三島市)の堀内忍社長は「観光客増加や盛んなイベントのおかげで前年比10%増のペースで売り上げは伸びている」と手応えを口にす

一九年は県とJR各社による観光誘致事業「静岡アステイネーションキャンペーン」、二〇年は東京五輪・パラリンピックがあり、さらなる誘客に期待がかかる。

三島市観光協会は本年度、東京五輪・パラリンピック後を見据えたスポーツ・歴史文化観光の推進を基本方針に掲げる。宮崎真行専務理事は「地元にお金が落ちる、稼げる観光を実現したい」と意気

込む。三島市の観光施設や催しなどに足を運んだ延べ人数を

三島市の観光施設や催しなどに足を運んだ延べ人数を

三島市の観光施設や催しなどに足を運んだ延べ人数を

12.16 市長選
三島市の課題

下

五輪後見据えた広域連携



多くの観光客らが行き交う三嶋大社前の通り＝三島市大宮町で

スポーツでは、伊豆地域で盛り上がりを見せるサイクリングの普及を促すとともに、大会や合宿の誘致を通じて横ばい傾向にある宿泊客数の増加を目指す。

歴史文化では、箱根八里ゆかりの三島市、神奈川県小田原市、箱根町の一帯が、国の日本遺産認定を受けた。二市一町などで行う協議会は、ホームページの制作やガイドの養成、外国人観光客を対象にした市場調査に取り組み、広域連携によって観光客の呼び込みを図りたい考えだ。

さらに三島市は伊豆半島の七市六町で組織する「美しい伊豆創造センター」にも参画。連携して観光戦略の策定や道路網の整備促進、サイクリングの普及などに取り組んでいる。

宮崎専務理事は「三島だけで観光を完結させるのではなく、周辺と広域連携することで、三島に立ち寄ったり、滞在したりする人を増やすことが重要だ」と強調する。

新幹線駅のJR三島駅があり、伊豆半島や富士山への玄関口としての役割を担っている三島市。東京五輪・パラリンピック後を見据え、広域連携をどう進めるかが問われている。